

No.36  
2019/9/1

レジオン・ヴィヴィ

—地域で暮らす—

# Region Vivir

Region Vivirは、スペイン語で地域で暮らすという意味です。これからは障がいがあっても地域で豊かに暮らす時代だと思います。



誰もが豊かな生活ができるように…。

かたくりの里 所長 若林昌子

10日間のデンマーク研修で  
改めて気づかされたこと

デンマークの町並み

デンマークでは社会保障制度が充実していることは言うまでもありません。例を挙げると、医療費無料、介護サービス 24 時間無料、出産費無料、基礎年金は、一人暮らしで約 20 万円／月、子育てや教育の面でも手厚い保障がされています。

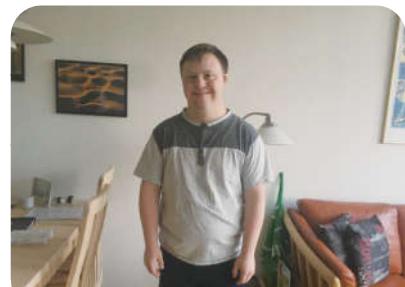
2月23日～3月4日にデンマークに行かせていただけに当たり、高福祉高負担な国であること、ノーマライゼーションの発祥の国であることを踏まえ、何を日本に持って帰れるのか、日本でどうデンマークでの取り組みを活かすのか、色々と想像を膨らませながら当日を迎ました。

発行者：社会福祉法人県央福祉会  
発行所：神奈川県大和市柳橋5-3-1  
URL : <http://www.tomoni.or.jp/>  
発行責任者：佐瀬睦夫  
編集責任者：抱井健二  
印 刷：ワークス桜舎

実際デンマークに行き、様々な事業所や企業を見学し、日本と大きく異なる点がいくつもありました。日本では難しい点もたくさんある中、私が一番印象に残っているのは、あらゆることにおいて「自由」で「柔軟」であることでした。グループホームでのペットの飼育もその1つの例です。

障がい者だけでなく、例えば、借金を背負った学生が、卒業後に返済できない事態になったとします。そうしたことが頻発すると、法律を変え、借金をなくしてしまう等、国全体が自由で柔軟な発想、そして物事をとてもシンプルに考えているのだと感じました。人と人とのつながりを大切にする、そしてとにかく対話が多いということも印象的でした。

デンマークでの幸福を象徴するような言葉に、「HYGGE(ヒュッゲ)」というものがあります。日本語ではうまく訳されていませんが、家族や友人、大切な人との交流、そこから生まれる温かな居



デンマークのグループホームの入居者



目	● 誰もが豊かな生活ができるように…。(かたくりの里 所長 若林昌子) .....1
次	● 平成30年度社会福祉法人県央福祉会決算 .....4
	● ベトナム訪問記 (理事長 佐瀬睦夫) .....6
	● あしえて！！あなたの事業所 (児童発達支援センターいっぽ) .....7
	● 新規事業所紹介 (アグリシステム羽沢) .....8
	● 県央カフェ・レストラン紹介 (クレイヨンピピー) .....10
	● 新施設紹介・編集後記 .....12

心地の良い雰囲気、というものとされています。家族や友人とのくつろいだ時間、その空間があるから幸せに満たされていくとして HYGGE を大切にしているとのことです。

日本とデンマークは違います。デンマークで行っている事を、そのまま日本でもしても仕方ありません。できることもできないこともあります。その上で、私が日本に戻ってできること、それはまず支援者とも当事者とも皆と対話をしてみることです。そこから見えてくることに一つひとつ協力しながら繰り返し取り組

んでいきたいと思います。

自由に柔軟にシンプルに、対話を通してそのように動いていければ、と感じています。誰もが豊かな生活ができるように…。

最後に、このような機会を与えてくださった、佐瀬理事長をはじめ、柴田執行役員、県央福祉会の役員のみなさま、不在の際に協力を頂いた菅原エリアマネージャー、かたくりの里の職員に御礼を申し上げます。

(編集・構成：HP・広報委員会 桑原大輔)



グループホーム「オーフセン」の皆さんとの記念写真

### 今回訪れた場所

#### エグモント・ホイスコーレ



1956年、身体障がい者の学校としてスタート。その後、1970年より障がい者と健常者を分けない統合教育を開始しています。学校は、障がいのあるなしに関わらず、問題なく生活が送れるような設備が整っています。介助が必要な方には、障がいのない学生がヘルパーとして介助を行っています。

#### フェイボス アクティビティセンター



日中活動支援の事業所です。70名が利用しています。一般就労が難しい方が対象で、日替わりで各種プログラムや木工、薪割り、絵、工作等様々な作業を提供しています。薪用に木を細断する際の機械も利用者さんが一人で扱っていました。1部屋2~5名程度で10部屋以上の活動室があります。

## 民間作業所アクティビティセンター



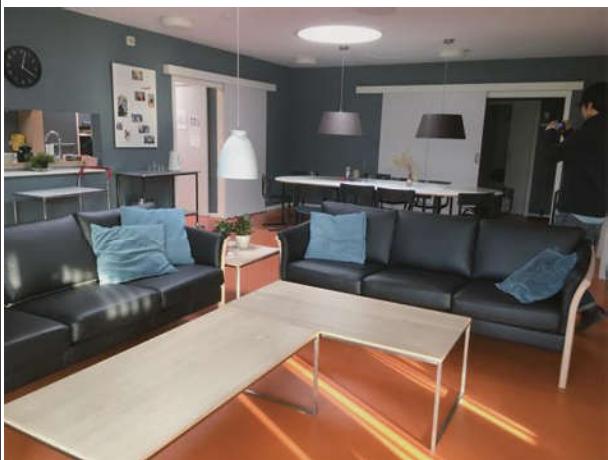
日中活動支援の事業所です。定員は 21 名で、現在は 19 名の通所者が在籍しています。職員は 5 名です。食事、木工、布、サービス（片付け）、ドラマ（芝居）、庭の 6 つのグループに分かれて活動しています。購入を希望する方は、この事業所での活動を一緒にを行い、一緒に作り上げることが条件となっています。

## Fabos カフェ



駅併設のカフェで、使用されていない車両をカフェスペースとして利用していました。就労訓練（就労移行支援）に取り組んでいる事業所です。カフェでの仕事を通して自分の向いている仕事を探し、就労へ移行していきます。生活リズムを整えるところからスタートする方もいます。

## Krogen( 入居施設 )



10 名入居、1 室ショートステイの入居施設です。バスルーム完備の個室に、共同スペースであるリビング等があります。

基本的にペットの飼育は不可ですが、精神的な安定を図るために例外的に認められることもあります。実際にインコを 2 羽個室で飼っている方がいました。

## GAIA

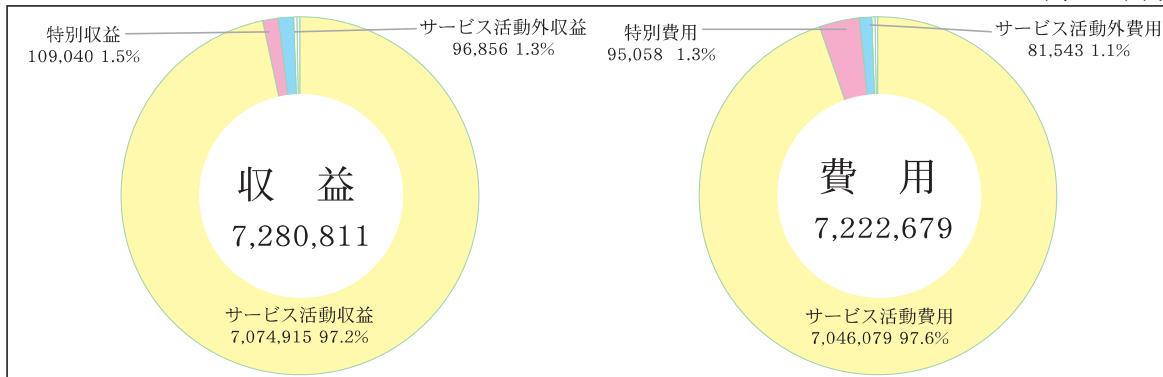


障がい者が働く芸術学校。養護学校制度で運営されています。スタッフは 60 名です。

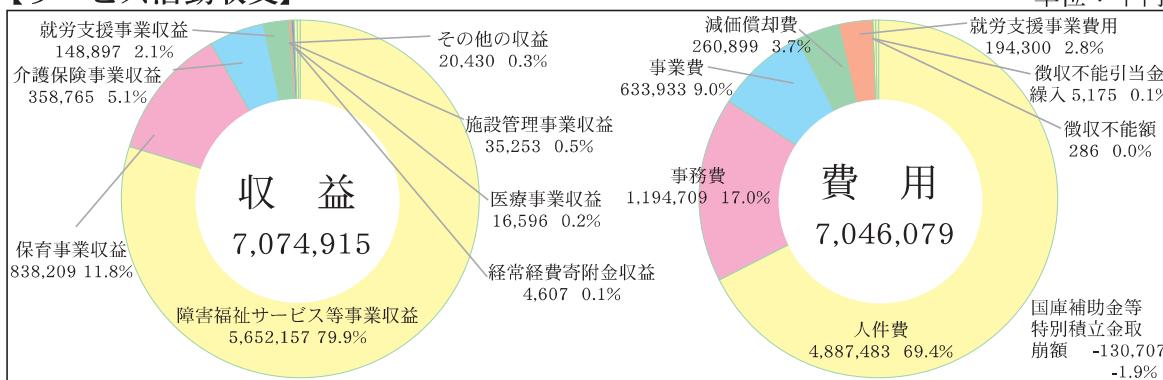
学校のテーマは“人生を自分で生活できるように”です。校内の活動だけではなく、週に 2 回病院の清掃を請け負っています。仕事を通じて自分のアイデンティティをつかむことを目的としています。

平成30年度（2018年度）  
社会福祉法人県央福祉会事業活動計算書  
[平成30年4月1日～平成31年3月31日]

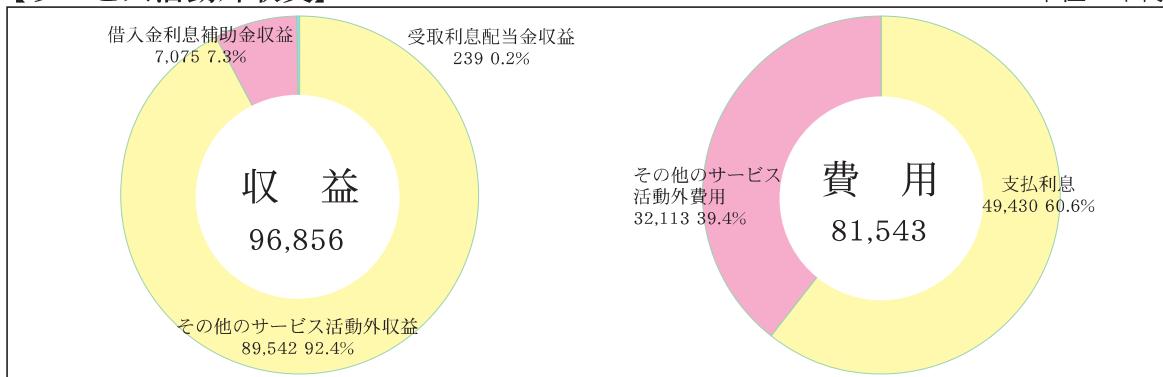
## 【全体】



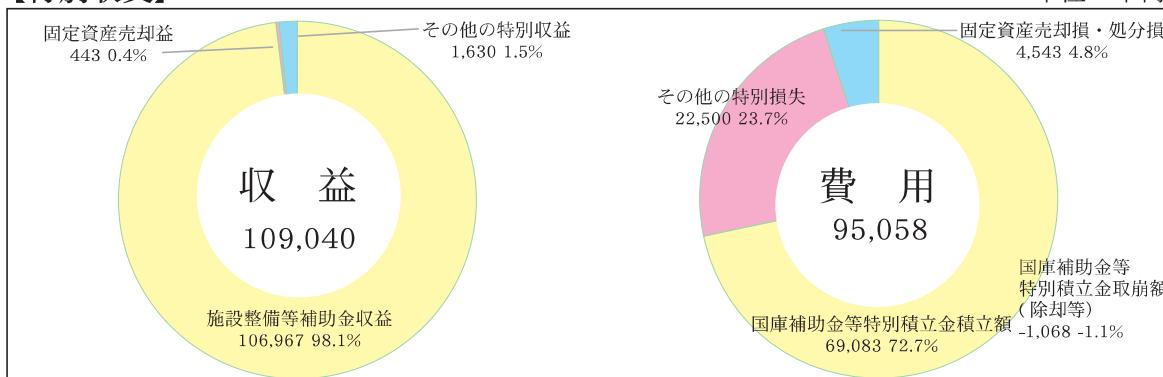
## 【サービス活動収支】



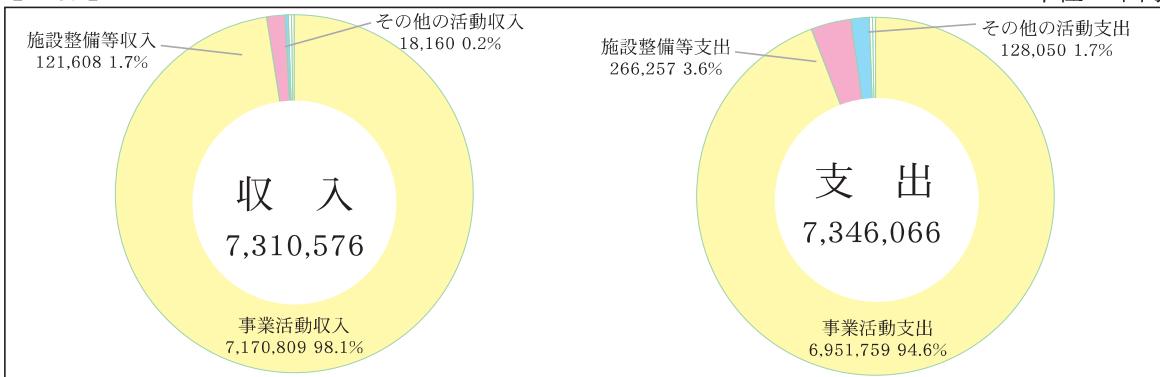
## 【サービス活動外収支】



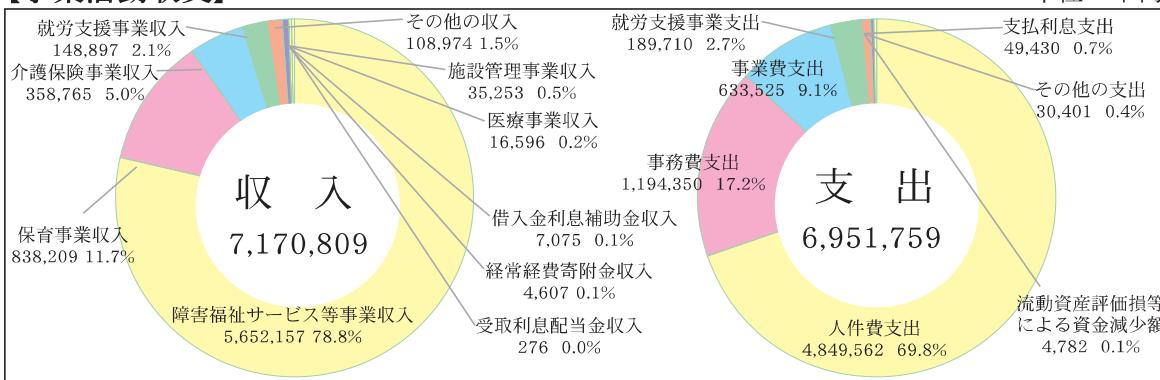
## 【特別収支】



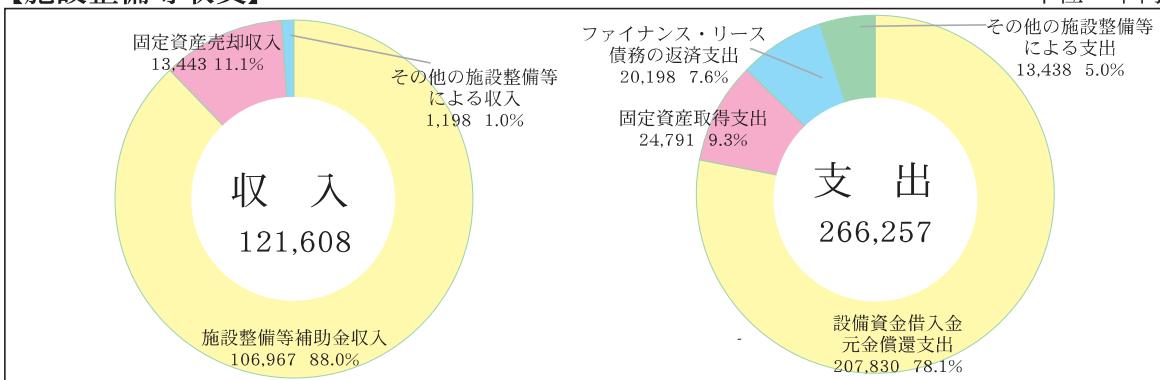
**平成30年度（2018年度）  
社会福祉法人県央福祉会資金収支計算書  
[平成30年4月1日～平成31年3月31日]**

**【全体】**

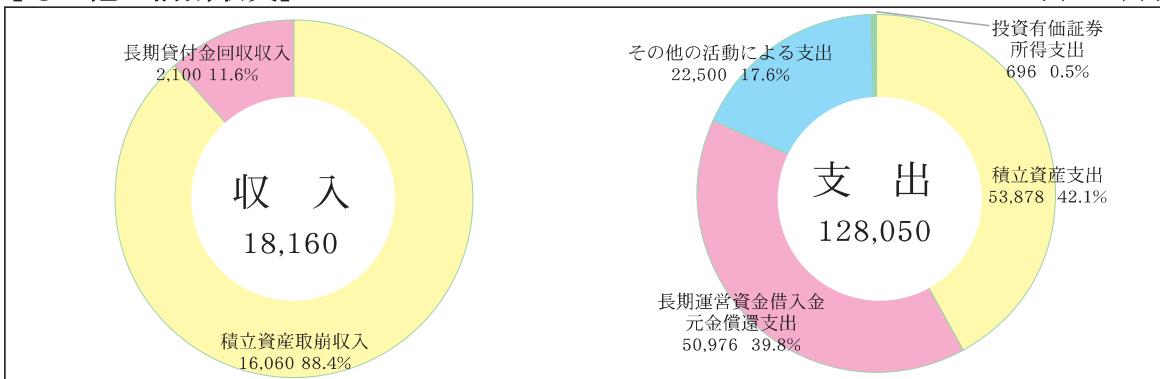
単位：千円

**【事業活動収支】**

単位：千円

**【施設整備等収支】**

単位：千円

**【その他の活動収支】**

単位：千円

## 寄稿 ベトナム訪問記

社会福祉法人 県央福祉会  
理事長 佐瀬 瞳夫

### ベトナム国内の日本語学校を訪問

6月30日から7月4日まで、ベトナムを訪



問した。8度目の訪問となる今回の目的の一つ目は、ホーチミン市で暮らすドクさんご夫妻と会うことだった。ドクさんは枯葉剤の影響で双胎児として生まれたが、もう一人のベトさんは残念ながら分離手術後しばらくして亡くなってしまった。ドクさんは、障がいを抱えながら二人のお子さんを持ち、ホーチミン市内にある国立産婦人科小児病院内にある障がい児者施設「平和村」の事務職として働いていた。しかし、昨年の機構改革に伴って「平和村」が他の場所に移転することとなり、ドクさんもこれを機に退職し、ベトナム料理と日本料理を出す小さなレストランを開業した。開店と同時にお客様の入りは順調だったが、ドクさんの身体は無理がきかず、わずか1ヶ月でこのレストランをなくなく閉じることになり、再度「平和村」に戻った。そんなドクさんの今後について話し合った。

2つ目は、ベトナムの青年を雇用したく、ハノイ市内にある4か所の日本語学校を訪問し、日本の福祉・介護の現場に関心を持つてもらお



うと日本語学校の校長さんや職員さんと意見交換をした。ただ、介護という概念

ドンドー日本学校の学生は国立大学卒業生がベトナムでは成熟しておらず、若者たちの関心や反応はあま

り芳しいものではなかった。

一方でベトナムの青年たちは日本で働きたいという意欲は強く、自動車関連企業や製造工場、ICT等の関連企業への関心は強かった。

特にハノイやホーチミン市等の大都会の若者たちは自分が進みたい方向性はしっかりと持っている。そこで、地方の看護大学や短大・専門学校の学生に働きかけてはどうかとのアドバイスを多くいただいた。

### 高度経済成長期のベトナムに期待！

3～4年前にあまり見かけなかったタワーマンションや高層オフィスビルがホーチミン市内でもハノイ市内でも数多く見受けられた。



ホーチミン市内の高層ビルと美しい夜景

事業に成功した高額所得者が存在し、高速道路や地下鉄等のインフラ整備に街は賑音高く活気に満ち溢れている。しかし、一般市民の給与月額は、2万5千円から良くて4万円程度だという。これは日本の高度成長期である昭和30年代後半から40年代の水準だ。

社会保障制度や福祉制度は、その国の経済成長が図られない制度へと繋がらないというのが一般論である。今、ベトナムはその途上のようだ。近年、高齢者の介護の必要性や、家庭に恵まれない子どもへの環境整備、共働きの若い夫婦への保育事業の充実が語られるようになってきている。(了)



ハノイにある障がい児施設「ベトナム友好村」での作業訓練風景

## おしえて！！あなたの事業所～”児童発達支援センターいっぽ”～

児童発達支援センター いっぽ（以下「いっぽ」と表記）は、相模原市緑区にあります。いっぽでは、発達に心配のあるお子さんの相談・療育支援を行っています。『いっぽ』という名前には、お子さんたちが“いっぽ、いっぽ”成長していくようにという思いが込められています。「いっぽに行く！」と、今ではお子さんたちに親しみを持って、呼んでもらっています。

いっぽでは、いくつかの事業を展開しています。児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、相談支援事業、放課後等デイサービス事業です。お子さんたちを多角的に支援していくよう、いっぽでの療育だけではなく、保育園や幼稚園等、お子さんが通っている機関をいっぽの職員が訪問し、園の先生方と密に連携を取っています。また、必要な福祉サービスを利用していただけるよう、お子さんやそのご家族のニーズを聞きながら利用計画を立てて、お子さん一人ひとりの発達段階に応じた支援のかたちを探っています。

日々の療育では、TEACCH プログラムの考えに基づいた支援を行っています。一人ひとりの発達段階に応じて「できること」を伸ばしていくために、それぞれのお子さんに合った環境設定や構造化、視覚的支援を行っています。“楽しい”と思って参加できることは、お子さんたちが持っている力を発揮していく原動力になります。感触遊び、からだ遊び、リズム遊び等、様々な活動を通して成長を促しています。その他にも、遠足や運動会、いっぽ祭り等の行事も行っています。行事をやるごとに、お子さんたちの成長が見られます。

まだ三年目の事業所ではありますが、今後は、より地域に根ざした事業所へとしていきたいと思っています。いっぽではどのようなことをやっているのか、地域の皆様に知っていただけよう、様々な方法で発信をしていきます。そして、地域の中で相談を受けたり、啓発をしたり、児童発達支援センターとしての役割を担っていけるよう、お子さんたちと“いっぽ、いっぽ”成長していく事業所でありたいと思います。

（取材・執筆：HP 広報委員会 南條 友佳）



事業所外観



視覚的にわかりやすい活動表

## 新規事業所紹介

### 『アグリシステム羽沢』



横内洋志所長

2019年4月1日、横浜市神奈川区羽沢町に、就労継続支援B型事業所として開所したアグリシステム羽沢（定員20名）。作業内容は、トマトジュースの製造・販売を中心に、軽作業も行われています。

一般販売に向けて、品質の安定と向上のための試作を繰り返している現在（6月上旬）。所長の横内さんに、お話をうかがいました。

#### 一事業所の特徴をおしえてください。

“農福連携”、“6次産業”でしょうか。農福連携とは、働く場としての農業と、働き手としての障がい者をつなぐ取組、両者の融合からなる多様性にとんだ地域のコミュニティの創造、それが日本の食・経済・暮らしを活性化していくことが期待される事業で、法人として初めての試みです。

6次産業とは、1次産業（農林漁業）者が、2次産業（食品加工）や3次産業（流通・販売）にも取り組み、農林水産業を活性化していくこと。 $1\times 2, 2\times 3$ の掛け算の6を意味しています。『アグリシステム羽沢』では、神奈川県産の、形や大きさが不揃いのため店頭には並ばないトマトやミカンを仕入れ、それを生産物本来の価値を高めるためにジュースに加工、そして流通・販売につなげていきます。一つひとつ丁寧に下処理をし、時間をかけてじっくり煮詰め、トマト本来の甘さを最大限に引き出すことにこだわっています。“作れる商品”ではなく“売れる商品”、クオリティの高い物を作っていくたいです。



#### 一事業所で大事にしていることや、取組は何でしょうか。

利用者の方には、やりがいを持って取り組んでもらいたい、と常々思っています。その点で、食品製造というのは、自分で作ったものが直接お客様に届けられて、感謝の言葉もいただける。やりがいを持てるこだと思ってています。

また、職員がやるのは最少限にして、利用者さんを中心に作業に取り組めるよう、主体性を引き出すための支援を考えていくこと。利用者さんが、「自分たちで作ったジュース！」と実感して売り出せるようにしていきたいです。



煮詰めるための大鍋とヘラ

#### 今後、どんなビジョンを描いていますか。

今は、ジュースしかないですが、それを皮切りに、まずしっかりした製品を作り、販売ルートを開拓していきます。商品ラベルに事業所情報を持せて発信していくこともできたらいいなと（例えば、QRコード）。今、デザイナーさんが、ラベルデザインを細かく考えてくれています。

事業所の紹介もしたいですけれど、“福祉”というのを前面に出さず、飲んでもらって、「おいしい」→「どこで作ってるの？」→「あ、福祉施設なんだ」と知ってもらうことが理想です。

また、アグリシステム羽沢を拠点とした農家

さんとのつながりを作っていくたいです。この近隣には農家さんが多いですし、新興住宅地でお子さんも多いです。いきなりは難しいですが、事業所前でマルシェを開くとか…。地域の農家と連携して、地域に根差した活動、活性化をしたいです。



トマトを搾汁する『パルパーfiniッシャー』

農業は、精神状態の安定、生活リズムの改善につながるという報告があります。まだ土地もあるので、ボランティアさんと一緒に野菜を作って育てていけたらという夢を持っています。

上菅田特別支援学校には、月1回の販売会に参加させてもらっています。今は法人内他施設の商品を販売しています。イベントに呼んでいただくこともあります。また、避難場所でもあるので避難訓練等、今後も協力をお願いしたいと考えています。

将来的には、商品の種類の増やすことも視野に入れていますが、まずジュースに専念して、軌道にのってから次に取り組んでいきたいと思います。

一ありがとうございました。



打栓器

### 記者の目

横内さん自身、ものを育てるのも販売することも好きとのこと。「できるできないは別として、やるからには夢を持って取り組んでいきたい」と語られました。

取材に際し、試作品をいただきました。赤というよりもナチュラルな朱色、とろつとした口当たり、でも後味はさっぱり。よくあるトマトの青臭さはなく、甘みがありました。トマトジュースは、そのまま味わうのも良し、お料理に使うのも良し。夏野菜代表のイメージですが旬は初夏と秋だそうです。これから的一般販売が楽しみです。

(取材・執筆：HP広報委員会 大越絵里子)



## 県央カフェ・レストラン紹介 Vol. 2 クレイヨンピピー



今回ご紹介するクレイヨンピピーは、大和市にある就労継続支援B型事業所です。定員は20名で、現在登録

者は36名。B型事業所ですが、今年は2名の方が就労されました。

作業は大きく分けて①レストラン業務、②軽作業業務、③施設外就労の3つがあります。今回はレストラン業務を中心にお話します。



綺麗な店内



自主製品が販売されています

優しい味がお客様から好評



ピピプレート

レストランは、近隣の方を中心に、常連のお客様が多く利用されています。中

でも“ピピプレート”が好評で、これを目当てに毎日いらしてくれる方もいます。また、月に1回の骨董市などのイベントがあると多くの方が来店され賑わいます。



おすすめは、「スペシャル野菜カレー」です。季節の野菜など10種類入っており、“生で、焼く、茹でる、揚げる、炒める”と様々な調理法を用いて美味しい仕上げています。

その他、数種類のカレーライスとロコモコ、ヤマトンライス、うどんなど色々と取り揃えています。ぜひお試しください。

クレイヨンピピーでは、お弁当の注文販売と配食サービスもしています。日中は近隣事業所のデイサービスへ配食し、夕方はいくつかのグループホームへ配食しています。レストランが空く午後の時間でも忙しく作業しています。様々な場面でお弁当の注文が入ることも多くあるそうです。また、予算に応じたオードブルの注文もできます。

お弁当は手作りで、レストランメニューと同様、味が優しいという評判が



スペシャル野菜カレー



あります。ぜひ皆さんに“手作りの優しい味”をお試しいただきたいと山本所長は話します。(配達は6食以上~、来店すれば1食から注文できます)。

クレイヨンピピーは、立ち上げ当初からのコンセプトとして、福祉の色を出さず、普通のレストランを目指しています。地域の方に徐々に認識してもらい、今後も地元に根付くお店でありたいと考えています。

レストランで働く利用者さんは、経験を重ねるにつれ、できることが増えて、最終的には一通りの工程ができる方もいます。職員がサポートしながら利用者さんの力を最大限に生かしつつ、レストラン運営を行っています。



職員は11名おり、全員女性です。皆料理が好きで、やる気を持って業務に取り組んでいます。

### 子ども食堂の取り組みについて

クレイヨンピピーでは毎月第4金曜日の17:00~20:00に子ども食堂を開催しています。子ども食堂では、図書館から大型絵本を借りてきて読み聞かせをしたり、ゲームをしたりして楽しんでいます。毎回高校生がボランティアで参加して子どもたちと遊んでくれます。また、



近隣の企業からもボランティアの方が参加しています。

定員は25名ですが、職員やボランティアの方も含めると、総勢40名近くが参加します。提供する食事は、栄養士がバランスの良いメニューを作っています。

繰り返して利用していただく方が多い一方、新規で参加してくれる方が少ないので、この取り組みをどのように広げていく



レストランで働く草刈知章さん(左)と澤野静男さんが今後の課題だと、山本所長は話します。

山本所長の思いとして、困難なことや困ったことがあった時は、利用者本位・お客様本位という基本に立ち返るということを念頭に置いています。「基本を信じてやっていくことで何でも乗り越えられる」と熱く語ってくださいました。



(取材・執筆：HP・広報委員会 安達祐二)

### 事業所データ

住所 〒242-0017 大和市大和東 1-6-11

電話 046-259-9698

URL <http://crayonpipi.web.fc2.com/>

ブログ <http://crayonpipi71.blog.fc2.com/>

# 新施設紹介

## ● アグリシステム羽沢（横浜市）

設置日：2019年4月1日

事業内容：就労継続支援B型

住所：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町 586-11

TEL：045-465-6752 FAX：045-465-6753



## ● すみれホーム川和台（横浜市）

設置日：2019年4月1日

事業内容：共同生活援助

住所：〒224-0056 横浜市都筑区川和台 11-32

TEL：045-532-5153 FAX：045-532-5158



## ● あやせラディーチ工（綾瀬市）

設置日：2019年4月1日

事業内容：生活介護

住所：〒252-1112 綾瀬市上土棚中 3-11-90

TEL：0467-84-8285 FAX：0467-84-8287



## ● 企業応援センターかわさき（川崎市）

設置日：2019年4月1日

事業内容：川崎市障害者等雇用推進・就労援助事業

住所：〒210-0001 川崎市川崎区本町 2-8-14 矢田ビル 802

TEL：044-589-8231 FAX：044-589-8236



## ● 大和精神・発達障がい者支援ステーション（大和市）

設置日：2019年4月1日

事業内容：就労移行支援【あがし】、自立訓練（生活訓練）【あいでみ】

住所：〒242-0005 大和市大和東 1-3-8 第7しいのきビル 3階・5階

TEL：046-206-5081 FAX：046-206-5709 （3階【あがし】）

TEL：046-206-5903 FAX：046-206-5906 （5階【あいでみ】）



今号より編集委員が取材・執筆をして、記事を作成しています。初めての試みという事もあり刻苦しましたが、このように形となり、ほっとしています。今後も本誌を通じて様々な情報を発信して、県央福祉会の魅力をお伝えしていきます。これからも委員の皆で頑張って参りますので、楽しみにしていてください。  
(抱井 健二)

### 編集委員

スカイキング 抱井 健二

法人本部 青木 久

緑区障がい者後見の支援室

みどりのこかけ 大越 絵里子

県央地域就労援助センター ぼむ 安達 祐二

児童発達支援センター いっぽ 南條 友佳

海老名市立わかばケアセンター 坪田 健太郎

かたくりの里 桑原 大輔